

# たぐみ

T A K U M I

No.033

平成26年1月●新春号

## 信州名匠会

(題字：故 池田三四郎 前名誉会長)

## 会の目的を確かめ 一步を踏み出す一年に

### 平成25年度・第21回総会開催



47名(懇親会には43名)が出席して開かれた総会

本市)による講演会を行った。倉橋氏は写真や映像を交えて、「蘇生(そせい)」をテーマに自身が手掛けた、築200年の古民家や温泉旅館などの改修事例を紹介。「既存の建物をただ壊すのではなく、その良さを残して利用しながら、現代の快適な暮らしをしたいという、施主の希望を実現したかった」と思いを語った。

信州名匠会は6月25日、長野市のホテル犀北館で第21回通常総会を開き、24年度の事業報告と25年度の事業計画などを決めた。土本俊和会長は「家をつくる能力は人が生きる力とも言え、建築の母体ではないか」とし、「そうした日本人が持っている内側の力を見つめ直していきたい」と語った。

今回のスリースター制度では、新たに26人を認定。総会後には会員でもある建築家の倉橋英太郎氏(松



### 平成25年度 信州名匠会 年間スケジュール

#### 平成25年

- 6月25日(火) 第21回通常総会・講演会・懇親会(総務)
- 7月25日(木) 第1回研修会A(総務・会員)
- 8月28日(水) 第2回研修会B(事業・技術)
- 9月9日(月) 親睦スポーツ大会C(会員)
- 9月25日(水) 第3回研修会B(事業・技術)
- 10月23日(水) 第4回研修会A(総務・会員)
- 11月9日(土)~11月10日(日) 研修旅行A、B、C(事業・技術。協力:総務・会員)
- 12月11日(水) 第5回研修会B(事業・技術)

#### 平成26年

- 1月22日(水) 新年会C(会員)
- 2月26日(水) 第6回研修会A(総務・会員)
- 3月26日(水) 第7回研修会B(事業・技術)
- 4月19日(土) 第8回研修会B(事業・技術)
- 5月21日(水) 第9回研修会A(総務・会員)
- 6月25日(水) 平成25年度通常総会(総務)

※研修会 場所:基本会場(株)宮本忠長建築設計事務所  
第2会場(株)降旗建築設計事務所  
時間:18:30 ~ 20:30

※研修内容・場所・日時については決定次第、順次お知らせいたします。

A 会員集会・委員会 B 学習・見学・実習  
C 交流 カッコ内は担当委員会

平成24年度通常総会 記念講演会

「好い加減な匠」  
～歴史刻む建物を現代風に「蘇生」～



講演する倉橋英太郎

信州名匠会 会員・  
(株)倉橋英太郎建築設計事務所 倉橋 英太郎氏

倉橋氏は、施主の切実な思いに応える姿勢の重要性について語りかけた。要旨を紹介する。

倉橋氏は、金沢の大学で建築を学んだ後、アメリカの設計事務所働いた。アメリカで暮らし、働いたことで日本文化のすばらしさを再認識し、帰国後に住宅や旅館の「蘇生」を全国的に手掛けるきっかけになったと自己紹介した。

日ごろ心がけている「蘇生語録」の中から、いくつかを紹介した。

◆頭隠して尻隠さず、ではいけない：限られた予算の中でも、地域の伝統文化や街並みを含む建築全体を考えながら計画、

デザインをするということ。◆知識を使うな。知恵を使え：最後に抛り所となるのは自分の体験 ◆迷ったら、まず現場に立て：自然の光や風向き、空気、風景、風土、そういうものを現場に立って自ら感じる事が大切 ◆日本はもとより、世界の潮流を知る：急増するインバウンドのお客様（海外から日本にやってくる観光客）にも対応する建築を。

倉橋氏は、テレビの「大改造！！劇的ビフォーアフター」に出演し、番組では「住環境の時代考証人」などと呼ばれた。「蘇生をテーマに、古いものを壊さずにできるんだ、ということ全国にお伝えできたのではないかと感じている」。

木曾町の小林邸は築200年の民家。予算と工期との闘いだった。「建物は残したいが、現代風に暮らしたい」という施主の切実な思いを実現した。

倉橋氏は、現在、地元松本市で、地域に残る「カフラス・生物化学研究所建物群」を松本の宝として、岳都・学都・楽都松本の歴史、風土を生かした施設として蘇生・再生することを提案し、実現のための活動を行っている。「日々、建築とまちづくりを考え、己のため＝地域のためという気持ちで、地域、日本、世界に貢献していきたい」と抱負を語った。

(文責：関 卓実)



会員の動向 (平成24年6月~平成25年6月。敬称略)

- 入会 個人会員 ■ 米山 智明 茅葺信州 屋根茅葺 〒399-4431 伊那市西春近2016-4 電話0268-98-0724
- 担当者の変更 個人会員 ■ 株式会社本久 前任)竹内 光平 新任)荒井 孝明
- 退会 個人会員 ■ 東出 輝彦/ステンドグラス作家

懇親ゴルフコンペ 落合一視さんが連勝

スポーツを通じ会員同士の親睦はかる恒例の懇親ゴルフコンペが9月3日、菅平グリーンに9名の参加で行われました。午後は雨が降るあいにくのコンディションでしたが、仕事を忘れ、和気あいあいゴルフを楽しみました。雨・風にも負けず、落合一視さんが見事昨年に続き優勝されました。プレー後のパーティーでは、会員委員会の西澤委員長に用意していただいた心づくしの各賞が渡され、今後の会員委員会の活動についての情報交換等、会員同士の親睦を深めるひとときとなりました。参加者はつぎの通りです(敬称略、順不同)。

坂田守夫/坂田工業(株)、西澤嘉雄/(有)エヌ設計、小川明/建築工房空、落合一視/落合コンサルタント、黒澤忠/クロサワメタル(株)、荒井孝明/(株)本久、西澤広智/(株)宮本忠長建築設計事務所、藤田勇/藤田建築、吉田雅彦/(有)スタジオスペースツ



# 二十ニツ星2名、二十ツ星1名など26名の新認定者が誕生

## ～スリースター制度規認定者紹介～

「スリースター制度」は、月1回の定例研修会に熱心に参加している会員の努力をたがいに認めあい、その誇りを励みに日々の仕事を高めあおうと、平成11年に創設された。研修会へ1回出席するごとに1単位を加算し、10単位で星1つを与える。新規認定者26名(認定者総数69名)が誕生し、通常総会において認定証を授与された。貴重な研さんの場である定例研修会への、会員諸氏の精力的な参加に、ますます期待が高まっている。

### ◆「スリースター制度」平成24年度新規認定者

(平成25年6月現在、五十音順、敬称略。混合はスペースの関係で新規認定者のみ掲載いたします)

#### ☆☆☆二十ニツ星2名☆☆☆

坂田守夫/坂田工業(株)  
西澤嘉雄/(有)エヌ設計

#### ☆☆☆二十ツ星1名☆☆☆

堀誠/建築工房アカシヤ

#### ☆☆☆十五ツ星2名☆☆☆

五明良平/(株)五明  
高木茂実/松田産業・南信(株)

#### ☆☆☆十四ツ星1名☆☆☆

中村光敬/(有)中村木工所

#### ☆☆☆十三ツ星1名☆☆☆

吉田雅彦/(有)スタジオスペースツー

#### ☆☆☆十一ツ星2名☆☆☆

白石大陸/サンコー特機(株)  
西澤 広智/(株)宮本忠長建築設計事務所

#### ☆☆☆十ツ星2名☆☆☆

増田幸雄/匠建設(株)  
鎌倉良取/(株)鎌倉材木店

#### ☆☆☆九ツ星4名☆☆☆

久保敏幸/(株)さつき苑  
犬飼栄治/(株)シナノ大理石  
鈴木隆/ルームデザインハウス  
岩井秀樹/岩井工業(株)

#### ☆☆☆八ツ星2名☆☆☆

伊藤章/(有)アキ・プランニング  
樋口豊/(株)ライフエンジニアリング

#### ☆☆☆七ツ星1名☆☆☆

海野政也/(株)海野鉄筋工業所

#### ☆☆☆四ツ星2名☆☆☆

中村泉/(有)ビーイング  
降幡廣信/(株)降幡建築設計事務所

#### ☆☆☆三ツ星2名☆☆☆

藤田勇/藤田建築  
長澤和芳/(株)角藤 長野本部

#### ☆☆☆二ツ星1名☆☆☆

前島浅男/大工

#### ☆☆☆一ツ星3名☆☆☆

川上恵一/(有)かわかみ建築設計室  
北澤徹/(有)北澤ステンレス工業  
黒澤忠/クロサワメタル(株)

## 平成24年度 事業報告 (人数は参加者)

### 平成24年

- 6月29日(金) 第20回通常総会・講演会・懇親会/「たくみ」No.030 夏号 発行
- 7月 26日(木) 第1回研修会「民芸に学ぶ家づくり～その技と心」委員会・会員集会 参加者21名
- 8月29日(水) 第2回研修会「木製サッシュの開発～イタリア視察報告」参加者21名
- 9月14日(金) 親睦ゴルフ大会 長野カントリーカントリークラブ 参加者16名
- 9月29日(土) 第3回研修会 民家再生見学会「職人の技とこころ」 参加者19名
- 10月15日(月) 平成23年度第一回理事会「平成23年度研修旅行について」参加者12名
- 10月24日(水) 第4回研修会「宮入小左衛門行平 祈りのかたち」個展見学 参加者26名
- 11月10日(土)～11月11日(日)  
研修旅行 「名古屋～歴史・文化に触れる旅」 参加者23名
- 12月19日(水) 第5回研修会 「日本人の伝統美を守る職人の仕事」  
寺社～東京駅丸の内駅舎保存復原工事 参加者23名

### 平成25年

- 1月23日(水) 新年会 ホテル犀北館 参加者 33名
- 1月23日(水) 「たくみ」No.031 初春号 発行
- 3月 2日(土) 第6回研修会「びんくし湯さん館」見学会  
会員の集い 参加者25名
- 4月13日(土) 第7回研修会「武石ともしび博物館」見学会  
昼食会～村越先生を囲んで～ 参加者19名
- 4月17日(水) 平成24年度 第二回理事会  
「平成25年度信州名匠会総会について」 参加者12名
- 5月25日(土) 第8回研修会「高森町立高森中学校」 参加者17名

## 信州名匠会 平成24年度 会計報告書 自:平成24年6月1日/至:平成25年5月31日

# 雪しろ窯 陶芸家 村越 久子さんご逝去



信州名匠会の顧問で、雪しろ窯・陶芸家の村越久子さんが、9月8日、ご逝去なされました。享年92歳。先生は50歳を過ぎて陶芸家の道を歩み、90歳を過ぎても、新たな作品に取り組み、数々の展覧会で入選され、個展を開くなど、ご活躍でした。当会では毎年4月、さくらの季節に雪しろ窯を訪れ、陶芸教室を開催させていただいてきました。先生のお優しい人柄で、会員みんなが陶芸作品づくりに没頭し、ものづくりの楽しさを体感できる素晴らしい時間をいただきました。会の発展に寄与していただきましたことに感謝し、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

## 哀悼文「村越先生を偲んで」

信州名匠会専務理事 坂田 守夫



お嬢さんからの電話で訃報を聞いた時、一瞬、夢かと思いました。4月末に先生のお宅で花見の会を開いていただいたときには大変お元気で、いつものここにこしたお顔を拝見したのを思い出した

からです。雪しろ窯までの陶芸教室は毎年4月末、桜の開花に合わせて開かれ、私も毎年楽しみに参加していました。20回近く皆勤賞の割に一番出来の悪い弟子だと自負しています。ですが先生はいつも笑顔で、「坂田さん、こんな技法もあるのよ」と、てきぱき指導していただき、陶芸の奥深さをしみじみと感じました。何とか自分なりに良い作品を創ろうと、本を読んだり、美術館に行ったり、なんでも鑑定団の中島誠之助さんの番組を見たり、努力をしました。おかげさまで毎回いろいろな賞をいただいておりましたが、3～4年前より慢心してしまい、良い作品が出来なくなってしまいました。先生にまだまだいろいろ教えていただきたかったです。お元気にもっと長生きしてほしいかったです。そして叱咤激励してほしいかったです。残念です。 合掌

## 哀悼文「憧れのひと」

元信州名匠会事務局 安田 涼子(旧姓 川向)

「秘訣は、毎朝お風呂につかることとビールを一杯飲むことなの。」

私が「健康と美の秘訣は？」と質問すると、村越先生はこう言って、いつもの控えめで可愛らしい微笑みをむけてくれました。

名匠会のなかで紅一点の村越先生は、周囲を柔らかい雰囲気してくれる存在でした。そのしゃんとした美しい佇まいに憧れていました。

雪しろ窯で年に一回催される陶芸教室は、東京から家族を呼び寄せて参加するほどに、楽しみでした。私は、思うままに土を練って作品をつくる陶芸の楽しさにすっかりはまりました。また、咲き乱れる紅白の花桃の中、先生と散歩をしたことも大切な思い出です。

2013年の春、教室開催は今回が最後ということで、主人と8カ月の娘と一緒に参加しました。その時、クジ引きで偶然にも私たち夫婦が同じワイングラスを当てました。脚の部分にぶどうの絵が描いてあるとても素敵なグラスです。ふたりでこのグラスを傾けるたび、村越先生を身近に感じ、あの微笑みを思い出しています。



信州名匠会 平成25年度 事業予算書 自:平成25年6月1日/至 平成26年5月31日

# 定例研修会●Report

(平成25年5月～10月)

## 平成24年度第9回研修会 【高森町立高森中学校見学会】

5月25日(土)

講師：山田将光氏・加藤健太郎氏(株式会社宮本忠長建築設計事務所)  
壬生照玄氏(高森町教育委員会)

参加者：18名

### 地元の木材をふんだんに。ぬくもりのある校舎



レベルの異なるグラウンドと校舎をつなぐ大階段

宮本忠長建築設計事務所設計監理し、昨年校舎が竣工、本年3月に外構が完成した高森町立高森中学校を見学した。設計担当者である山田氏、加藤氏、教育委員会の担当である壬生氏を講師として招き、計画の経緯、概要を説明していただいた。

高森中学の大きな特徴は上足利用の中庭と、そこからグラウンドにつながる大階段である。傾斜地のためグラウンドと校舎のレベルが異なる。大階段はその2つのレベルをゆるやかにつなげている。中庭・大階段はクラスマッチや文化祭等に、ピロティ部分は部活動の練習にと、生徒たちの活動が至るところで展開されていくことだろう。

建物内部は地元の木材をふんだんに使用した、ぬくもりのある空間となっている。廊下はワークスペースとしても利用できる幅を確保し、校舎全体に回遊性のある動線計画を行い、ゆとりのある空間になっている。



地元材でぬくもりがあり、幅の広い廊下

プロポーザルから始まった計画は、当初の案は3階建てであったり、配置計画も違う計画であったようだ。壬生氏をはじめ、町民や教育委員会、先生方と検討を重ねていくうちに変わっていった計画は、携わった人の想いがつまったものであった。

新しい校舎を生徒たちがどのように活用していくのか、楽しみである。(中村明穂)

## 平成25年度【第1回研修会】

7月25日(木)

講師：出澤 潔氏(信州名匠会会員、出澤潔建築設計事務所所長)  
参加者：22名

### 「私の独り言」(平成25年春 旭日双光章叙勲)

○藝大時代 吉田五十八、吉村順三氏らに学ぶ○

皆さんのおかげであのような勲章をいただくことが出来た事に感謝。今日は私の独り言、ということで話してみたい。

東京藝大の同級生は15人。先生は吉田五十八先生、岡田捷五郎先生、吉村順三先生、山本学治先生ら。吉村先生は助教授だった。吉村先生に「いま君たちが考えていることは必ず50歳、60歳になっても考えることだから、いま一生懸命考えなさい」と言われたことを、今も思い出す。



○建築全体を学びたい。藝大から大林組へ○

私は、設計だけでなく建築をつくる全体を知りたいという思いから、施工会社(大林組東京支店)に入った。私は設計課長を経て、設計管理部に移り設計管理課長になった。当時、全国で設計部員が800人ぐらい。その設計部員の人事管理と技術の管理など、設計から離れた仕事になった。

○郷里の佐久市に戻り設計事務所を開業○

山本先生が講義で「君たちはいつかは田舎に帰れ」と言われたことがある。自分にどんな能力があるかは分からないけれど、帰ってきて何か少しお手伝いできるかな、という夢みたいな思いもあり、田舎に帰るという決心ができたと思う。

○住まいとものづくりについて思う。数値で計れない「真の価値」○

最近、このままでいいのかなあと思うことがふたつある。ひとつは、住まいについて。形ばかりの空間構成、ファッション化した軽薄な形、環境性能を声高に叫ぶ住まいの群れ。エネルギー議論の高まりとともに注目されている数値で示すことのできない「住まいの価値」が、忘れられてしまうことを恐れる。

吉田五十八先生は、「いつまでもここにいたいなあ、と感じられることが住まいの極致だ」と教えてくださり、吉村順三先生は、「心地の良さ」を口癖のように私たちに語りかけてくださった。住まいというのは人を育てる場所、人間は思い出の中で感情を育てる。冬でもぬくぬくと寒さを感じずに快適に過ごすことが、人間として本当に幸せなのか。とくに名匠会の皆さん方は、そういうことを考え、きちっと伝える役割があると思う。

○木造技術の継承は危機的状況○

建設業の新規入職者数が減り就業者数が3割近く減少。高齢化が大幅に進み、若手とくに、技能者、職人と呼ばれる人が不足し、危機的な状況にある。住まいには数値で計れない大切な価値があり、つくる人もつくることで人に喜んでもらう、そうした気持ちが、みんなの気持ちの中に入っていくと、いまの住まいよりは、もう少しいい住まいができていくのではないだろうか。

## ○宮本先生の存在に背中を押され○

東京から田舎に戻る時、仕事があるのか、できるのかと、非常に不安だった。たまたま本屋で手にした雑誌「近代建築」を見ていたら、宮本先生の特集があった。「信州でこんなにやれる人がいるんだから、オレも何とかやれるのかな」と、すごく力づけられた。だからこの雑誌と先生にいただいた手紙を、大事にとってある。宮本先生が新聞に載ったりしたのも全部とっておいてある。私にとってはとても大切な宝物だ。(関卓実)

## 平成25年度第2回研修会 【「東京駅丸の内駅舎保存 復元工事」記録映像鑑賞会】

8月6日(火)  
参加者：16名

### 伝統的な技術・知識の継承の場としての意義も

東京駅保存・復元工事の屋根銅板葺を施工された水沢氏から、ビデオ「赤レンガ駅舎 保存・復元の軌跡」をお借りして鑑賞した。東京駅の工事は、「駅舎を創建時の姿に戻す」「駅舎全体を免震化する」という大きく2つの役割があった。



駅舎を創建時の姿に戻すためには、当時の材料を用いるだけでなく、銅板葺きや煉瓦の覆輪目地など伝統技術の技法による施工が行われた。現代ではあまり用いられなくなった技術を復活させ、後世へと受け継ぐ現場でもあった。

免震化の工事は現代技術を使って駅舎を未来へ継承する役割。駅舎は鉄骨煉瓦造であり、現代使われていない構造であるため、中身がよくわからないものを扱う難しさがあったようだ。それでも壊す部分を最小限に抑え、保存するという本質を忘れない工事が行われた。

免震装置のような技術が進化していく中で、伝統的な技術をもつ職人が減少している。スレート葺きをまともにできる職人さんは全国で10人しかいない。伝統的な技術・知識を今後どう伝え、どう受け継いでいくのか。名匠会の役割を再認識する研修会となった(中村明穂)。

免震装置のような技術が進化していく中で、伝統的な技術をもつ職人が減少している。スレート葺きをまともにできる職人さんは全国で10人しかいない。伝統的な技術・知識を今後どう伝え、どう受け継いでいくのか。名匠会の役割を再認識する研修会となった(中村明穂)。

## 平成25年度 第3回研修会 【松本城見学会】

9月28日(土)  
講師：降幡 廣信氏(信州名匠会副会長、株式会社降幡建築設計事務所)  
参加者：15名

### 現存する日本最古の五重天守

降幡氏にご説明いただき、素晴らしい秋晴れの中「国宝松本城」を見学した。最初に、黒門前で降幡氏から、享保

10年頃の松本城全景のイラストを見ながら、今後復原が計画されている外堀の位置等、城郭全体の構成について説明いただいた。さらに、城内に入る前に、松本城の特徴を解り易くお話しいただいた。



松本城は、日本の城郭建築の中でも古く、1593年ごろに築造された。石垣は、勾配のなだらかな野づら石(自然石)積みである。天守は外観5層、内部6階で、低層部が一般的には入母屋となるところを、松本城は、すべて寄棟とし、千鳥破風や、唐破風をつけている。降幡氏のお話を伺った後、各自でじっくり場内を見学、日本の建築の伝統・歴史を学んだ。(西澤広智)

## 平成25年度 10月2日(水)、宮本忠長建築設計事務所 第1回理事会 出席者：10名 (理事9名、事務局1名)

## 坂田守夫氏に 国土交通大臣表彰



当会専務理事の坂田守夫氏(坂田工業(株)会長、全国防水工事業協会常任理事、関東甲信支部長。長野市)は、老舗「防水屋」の4代目社長として会社を成長させながら、全国防水工事業協会の活動を通じて業界全体の発展にも貢献。功績が認められ、このほど国土交通大臣表彰を受賞した。「防水は建物の命。技術力の差がはっきり出る屋上防水は防水屋の腕のみせどころ。まがいものはつくりたくない」と、技術へのこだわりはひとしおだ。防水施工技能士の検定員として後進の育成にも力を注ぎ、社会保険の未加入問題にも取り組んでいる。

## 数寄屋大工の宮澤郁夫氏 に「信州の名工」表彰



当会会員の宮澤氏(宮澤建築代表。安曇野市)は、卓越技能者を県知事が表彰する「信州の名工」表彰を受けた。40年ほど前に初めて茶室の建設に携わり、数寄屋造りに魅せられ、約10件の数寄屋建築を手がけた。「大変光栄なことで、長くつづけてきて良かった。これからも、一般住宅建築の仕事をしなが、数寄屋建築の技術を磨いていきたい」と抱負を語る。